

審査所感

今回審査をしてみて、いわき市美展のレベルの高さを感じた。中でも、人間を写した作品に良い作品が多かった。人間を写すのは、なかなか難しいものだが、審査に際しては、人間としての自然さが映し出されていて好感がもてる作品を選んだ。風景や動物などを写した作品でも、身近な自然さに注目して選んだ。

市長賞の吉田氏の作品は、画面積に対する人物の大きさが実にバランスよく写されていて文句なしの作品である。人物の表情と視線が実に自然で、作者とモデルとの気持ちが一致した見事なシャッターチャンスであった。議長賞の折原氏の作品は、砂浜に打ち上げられた廃船を写したオーソドックスな作品であるが、その構成のうまさが光り、情景描写にも優れていた。教育長賞の縣氏の作品は、二本の樹木の間からぞいでいる紅葉の大膽な構図が「秋へようこそ」という題名にマッチして良かった。佳作の新妻氏の作品は、表情豊かな女性と左奥に顔を突き出す牛の表情との対照の妙がとても良かった。斉藤氏の作品は、議長賞の作品と好対照を見せ、夜景の中に赤い廃船が意図的に配され人目を引く。矢吹氏の作品は、捕らえ所のない難しい情景を実にうまく捕らえていた。菊地氏の作品は、写真の激しさと題名がよく一致した作品である。大浜氏の作品は、テクニックのものすごさ、大胆な構図のすばらしさが光っていた。上遠野氏の作品は、静謐さの中に自然の大きさを感じさせる。渡辺勉氏の作品は、三ヵ所の光の配置が微妙なバランスを保つ作品である。高橋氏の作品は、スナップ写真でありながら実に取りよく構成され、氏のキャリアを感じさせる。加藤氏の作品は、上半分の動きが幽玄という題名にぴったりくる。岡田氏の作品は、テクニックとしては地味だが、目の付け所がなかなか良くおもしろい。村上氏の作品は、自然界の珍しい光景をうまく捕らえた作品である。中野氏の作品は、視点のユニークさに好感をもった。渡辺孝氏の作品は、現代っ子とおみくじという精神的対照が実に自然に写されている。鵜沼氏の作品は、派手ではないが、カラーのもつ特色をよく生かした作品であった。鳥海氏の作品は、自然観察的な目が生かされた作品であった。

これら賞に選ばれた18点の作品を通してみると、いわき市美展が、実にバラエティーに富んだ高度な展覧会である、と言えると思う。

2003年2月19日

審査員 白旗史朗

(写真家、JPS・PSJ会員、
山岳写真の会「白い峰」主宰)

第32回

写真の部 入賞者

| 賞 名 | 題 名 | 氏 名 | 住 所 |
|----------------------|---------|------|--------|
| いわき市長賞 | 里香とユウクン | 吉田精利 | 中之作 |
| いわき市議会議長賞 | 海物語 | 折原三郎 | 小名浜岡小名 |
| いわき市教育委員会 教 育 長 賞 | 秋へようこそ | 縣和子 | 中央台 |

《佳 作》

| | | | |
|----------------------|---------|-------|--------|
| いわき商工会議所 会頭賞 | 里の小春日 | 新妻十太郎 | 久之浜町 |
| いわき市文化団体 連絡協議会会长賞 | 竜骨 | 斉藤趙一 | 小名浜野田 |
| 福島県報徳社賞 | 湖畔の朝 | 矢吹進造 | 泉玉露 |
| 美術館友の会賞 | 紅炎 | 菊地英夫 | 平赤井 |
| いわき市観光協会賞 | 光 | 大浜遵子 | 小川町上小川 |
| " | 静寂の湖畔 | 上遠野松雄 | 遠野町上遠野 |
| いわき写真師会賞 | 光芒 | 渡辺勉 | 平下荒川 |
| 有限会社平電子 印 刷 所 賞 | 孫娘 | 高橋和子 | 内郷高坂町 |
| 昭文堂賞 | 幽玄の緑映 | 加藤清治 | 郷ヶ丘 |
| カメラの田中賞 | 小惑星 | 岡田昭二 | 平中神谷 |
| " | 水沼のオンドリ | 村上忠士 | 内郷御台境町 |
| 福島県写真商業組合 いわき支部賞 | 映る紅葉 | 中野喜一 | 平中神谷 |
| 福島フジカラー賞 | おみくじ | 渡辺孝 | 平泉崎 |
| " | 妖しき海岸 | 鵜沼信男 | 郷ヶ丘 |
| N H K いわき 文化センター賞 | 里山昆虫譜 | 鳥海陽太郎 | 平 |

審査を終えて

出品作品全体を通して感じたことは、風景あり、人物あり、動物ありと皆様あらゆる所で作品を作つておられるという、その広がりがおもしろいと思いました。ほんの一点直せば上位にいけたのに…と思う作品が多かったのも事実です。

あまり細かい事は申し上げられませんが、写真に必要なのは、その作品に物語があるということです。一枚の作品を見た人が、その写真からいろんなことを想像したり感動したり、時には涙したりと…。ただ美しいというのでは弱いです。つまり、力がないと見る側に訴えてはこないでしょう。力は、キャリアだけではありません。その人の人生そのものの厚みなのです。それが作品に必ず出てくると私は信じています。

市長賞の作品「心の想い “閉山”」は、社会性や歴史の重要性、記録することの意味など、様々な印象を与えてくれました。

議長賞の作品「祈陽」は、フレームの中に岩の真黒いフレームを配したことにより、作品がしまりました。岩の中に立つ人々の位置が右寄りで個性的なバランスがおもしろいです。

教育長賞の作品「アブラゼミ羽化の夜」は、身近な自然のうつろいにもかかわらず普段なかなか目にする事のできない瞬間を、民家の外燈を背景にみずみずしく表現した作品です。蝉だけを見がちですが、人間の住空間をバックに感じさせることによって作品にドラマを生み出していると思います。

人物写真にも風景写真にもいえることですが、写真は“光と影の芸術”ともいわれるよう、光線の角度や時間帯による色温度の変化で、作品が生きたりも死んだりもします。光を見て、その光をあやつれる訓練をしながら、今後も楽しく写真を撮つていって下さい。

2004年2月18日

審査員 織作峰子
(写真家)

第33回

写真の部 入賞者

| 賞名 | 題名 | 氏名 | 住所 |
|------------------|-----------|-------|------|
| いわき市長賞 | 心の想い “閉山” | 永山亘 | 内郷宮町 |
| いわき市議会議長賞 | 祈陽 | 鶴沼信男 | 郷ヶ丘 |
| いわき市教育委員会教 育 長 賞 | アブラゼミ羽化の夜 | 鳥海陽太郎 | 平 |

《佳作》

| | | | | |
|------------------|------|--------|-------|--------|
| いわき商工会議所会頭賞 | 真美 | 十四の秋に | 吉田精利 | 中之作 |
| いわき市文化団体連絡協議会会長賞 | 静晏 | | 永井良夫 | 遠野町上遠野 |
| 福島県報徳社賞 | 五彩 | の舞 | 中川秀男 | 好間町上好間 |
| 美術館友の会賞 | まい | つた | 渡辺浩徳 | 平 |
| いわき市観光協会賞 | 湿原 | の朝 | 江尻利一 | 中岡町 |
| | 池塘 | 彩秋 | 片寄和彦 | 平 |
| いわき写真師会賞 | 寂 | 乎 | 猪狩俊子 | 内郷高坂町 |
| 有限会社平電子印刷所賞 | 落葉 | 水結 | 大平章 | 常磐湯本町 |
| 昭文堂賞 | うつろい | い | 鍛治邦雄 | 中岡町 |
| カメラの中田賞 | 寒い | 朝 | 舛井美智子 | 平谷川瀬 |
| | なかよし | 猪狩マツエ | | 遠野町上遠野 |
| 福島県写真商業組合いわき支部賞 | 初 | 冬 | 中川光晴 | 常磐上矢田町 |
| 福島フジカラー賞 | 春うらら | 松崎美津子 | | 好間町小谷作 |
| | 彩り | 大津賀禮子 | | 小島町 |
| NHKいわき文化センター賞 | 鬼灯 | 佐々木みつ子 | | 東田町 |

審査を終えて

写真の場合、足元の小さな世界から遙か地平の彼方、無限に広がる宇宙の果てまで、この世界に存在するあらゆる事物がその被写体となる。変化に富んだ被写体の数々を、自分の写真表現に組み入れるために、何よりも事実に対する綿密な観察が必要だ。自然風景でも人間の生きる姿でも、また都市や社会現象でも、対象をよく見ることにより、新たな発見や感動が生まれる。

今回、いわき市民美術展の応募作品を審査させていただいたが、ローカルカラーを生かした作品や、豊かな自然をテーマにした作品、人間の面白さ可笑しさを表現したものなど、内容的にも質的にも優れた作品が多く、見応えがあった。また一枚の画面に沢山の写真を張り込んだマルチフォト作品など、創造的なイメージの作品が何点かあり興味深かった。

上位入賞作品に触れると、いわき市長賞を受賞した「春の流れ」は、桜の花と、水面に幾つもの花びらの渦を描いている川の情景を写しこむことで、めくるめくような揺れ動く春のイメージを美しく情感豊かに表現している。獅子舞を見物している子ども達の、明るく楽し気な様子を捉えた「ハピニング」は、シャッターチャンス、フレーミングともに実に的確で、子どもの群像写真としての面白さを存分に感じさせてくれる。「刻の想い『閉山』」は、すでに廃墟になった炭鉱の姿を中心に、街の情景や人々の生活などを撮影し、一つのフレームの中に60点余りの写真を貼りこんでいる。写真の構成にやゝ難があるものの、変わり行く時代の姿を記録したドキュメンタリーとして、印象に強く残った。

2005年2月18日

審査員 熊切圭介
(写真家)

第34回

写真の部 入賞者

| 賞 名 | 題 名 | 氏 名 | 住 所 |
|----------------------|---------------------------|---------|--------|
| いわき市長賞 | 春 の 流 れ | 菊 地 英 夫 | 平赤井 |
| いわき市議会議長賞 | ハ ピ ニ ン グ | 石 川 義 紀 | 小名浜 |
| いわき市教育委員会 教 育 長 賞 | 刻の想い『閉山』 | 永 山 亘 | 内郷宮町 |
| 《佳 作》 | | | |
| いわき商工会議所 会頭賞 | 残 り 柿 | 大 平 章 | 常磐湯本町 |
| いわき市文化団体連絡協議会会長賞 | モリアオガエルの棲む沼 | 鳥 海 陽太郎 | 平 |
| 福島県報徳社賞 | 朋子、26才の初夏に | 吉 田 精 利 | 中ノ作 |
| 美術館友の会賞 | 眠るタマちゃん | 岡 光 明 | 錦町 |
| いわき市観光協会賞 | 夜 明 | 松 崎 一 夫 | 平 |
| " 夕 陽 | 増 井 俊 一 | 平 | |
| いわき写真師会賞 | 静 寂 | 矢 吹 又 夫 | 郷ヶ丘 |
| 有限会社平電子賞 | 湖 上 の 輝 | 長谷川 錦 治 | 郷ヶ丘 |
| 昭文堂賞 | 好 奇 心 | 渡 辺 孝 | 平泉崎 |
| カメラの田中賞 | 壊れ た グ ラ ス | 鶴 沼 信 男 | 郷ヶ丘 |
| " | Tennis of Maria Sharapova | 鈴 木 茂 利 | 遠野町上遠野 |
| 福島県写真商業組合 いわき支部賞 | 生 き る | 緑 川 良 子 | 江畠町 |
| N H K 文化センター賞 | 海 空 光 跡 | 山野辺 武 | 小名浜 |
| 東日本国際大学賞 | 笑顔 そし て 未来へ | 中 澤 美紀子 | 平下平窪 |
| 有 限 会 社 ニユータウン薬局賞 | 独 標 暮 色 | 高 田 健 三 | 中央台 |
| 医療法人医和生会 山内クリニック賞 | 撫 林 雾 景 | 加 藤 清 治 | 郷ヶ丘 |
| 医療法人福島労働 保健センター賞 | 樹 水 の 造 形 | 古 川 方 明 | 常磐関船町 |
| 小百合賞 (有)磐植 | 反 映 の 街 | 江 尻 敏 子 | 平北神谷 |

審査を終えて

今回皆さん的作品を拝見して熱心に作画している事を感じました。私の作品評価の基準は、被写体に対して作者がどの様に感じて表現するかを見ます。個性的作品を作る事は大変な事ですが、誰が写しても同じような作品では駄目だと思います。出品作品は風景写真が多く、動物、モデル写真は少なかった。賞にはいろいろな分野の作品を選びましたが、全国的に見てもレベルは高く感じました。

市長賞「はやくあいたいな」上遠野真人さんの作品は、被写体に対して撮影場所の選定と光の捉え方が上手く、爽やかなファミリー作品として評価しました。

「干潟」中澤美紀子さんの作品は枚数の多い組写真ですが、テーマに対しての観察力と発表方法の上手さにより狙いが選者に伝わって来ました。ダム湖のドキュメント写真として評価しました。

「地球の根っ子」小野貞夫さんの作品は、砂の紋様の美しさを絵画的に表現した事が良く、ややブルー系の色彩により力強い作品でした。

2006年2月22日

審査員 蜂須賀 秀 紀
(写真家)

第35回

写真の部 入賞者

| 賞 名 | 題 名 | 氏 名 | 住 所 |
|---------------|----------|--------|-------|
| いわき市長賞 | はやくあいたいな | 上遠野 真人 | 小名浜住吉 |
| いわき市議会議長賞 | 干 潟 | 中澤 美紀子 | 平下平塙 |
| いわき市教育委員会教育長賞 | 地球の根っ子 | 小野 貞夫 | 平薄磯 |

《佳 作》

| | | | |
|--------------------------|-------------|--------|---------|
| いわき商工会議所頭賞 | 大地の賛歌(縄文杉) | 岡 光明 | 錦町 |
| いわき市文化協会会長賞 | 深山の妖精 | 豊田 薫 | 北茨城市関本町 |
| 福島県報徳社賞 | 燃 ゆ る | 鶴沼 信男 | 郷ヶ丘 |
| 美術館友の会賞 | 盛 夏 に 憇 う | 平沢 ミチ子 | 錦町 |
| いわき市観光協会賞 | 水 彩 | 安保 正幸 | 平 |
| | あくろばっと | 斎藤 雄一 | 小名浜野田 |
| いわき写真師会賞 | 月 の 影 響 | 根本 宏之 | 小島町 |
| 有限会社平電子印刷所賞 | ひ だ ま り | 長谷川 公一 | 四倉町 |
| 昭文堂賞 | 黄 昏 | 丹野 孝 | 桜ヶ丘 |
| カメラの田中賞 | 宝 飾 初 夢 | 大山 登 | 錦町 |
| | 炭鉱が消えた…Ⅲ | 永 山 亘 | 内郷宮町 |
| 福島県写真商業組合いわき支部賞 | ひとやすみ | 鷺 良一 | 錦町 |
| N H K 文化センター賞 | 月 下 の 三 崎 岩 | 山野辺 武 | 小名浜 |
| 東日本国際大学賞 | 散 歩 | 酒井 時紀雄 | 内郷内町 |
| 有 限 会 社 ニュータウン薬局賞 | 悠 悠 空 間 | 茜 潤 | 桜ヶ丘 |
| ライフ・フォート & Y K 写 真 工 房 賞 | 贊歌(支えるもの達へ) | 加藤 真一 | 日立市会瀬町 |
| 小百合賞 (有)磐植 | 羊 | 渡辺 敏夫 | 遠野町上遠野 |

審査を終えて

いわき市民の寄せた写真作品は243点あり、その全作品を審査した結果の印象は非常に爽やかなものであった。御承知のやうに写真の世界は技術革新のテンポが速くデジタル化が目立ち大手を振つてあるいている。その中にあって銀塩写真に依るもののが意外に多くあった。しかもそのプリントは一様にしっかりした技術に裏付けされ階調豊かな調子の作品に仕上がっていった。アマチュアの世界にあつては制作した作品それ自体がすばらしいものであれば受賞の栄誉に輝くのである。森羅万象、被写体にならぬものは無い。身の廻りを注意深く興味を持って探せば必ず何かしらを見つける。

実際、今回の市長賞「四国遍路のこどもたち」はモノクロ写真であった。しかも作者は女性で年配者でもある。四国金刀比羅宮のあの長い距離の急な石段を夏の強い日差しの中、一人一人が独立独歩、力強く足を踏みしめて登つて行く、その様子が手摺をつかみ、或いは足もとを踏ん張るところに力強く表現されている。議長賞の「突風」は神主を先頭に若い娘の一群が編み笠を予期せぬ風に飛ばされぬ様庇ひ進む娘達、それを従つて先頭を歩く神主の毅然とした姿勢はユーモラスさへ感じ何とも微笑ましい。教育長賞の「流砂の大樹」は砂浜に於ける撮影だが雨あがりの末、風に依つて作られる風紋と同様、自然の造型を捉へた作品であった。

この他にも子供の世界を巧みに描いたもの、動物と人間との対比、鳥の飛翔、林の中の落葉と光、水の流れ等々どれもともすれば通り過ぎて仕舞う場面ばかりである。カメラまかせでなく考えてシャッタースピードや絞りの関係を追求して行くなかに秀作が生まれて来ると実感する。

2007年1月31日

審査員 高 村 規
(写真家／(株)日本広告写真家協会顧問)

第36回

写真の部 入賞者

| 賞 名 | 題 名 | 氏 名 | 住 所 |
|--------------------|-------------|-------|---------|
| いわき市長賞 | 四国遍路のこどもたち | 猪狩俊子 | 内郷高坂町 |
| いわき市議会議長賞 | 突 風 | 猪狩清恵 | 平下平窪 |
| いわき市教育委員会教育長賞 | 流砂の大樹 | 永山淳 | 内郷宮町 |
| 《佳 作》 | | | |
| いわき商工会議所会頭賞 | 水 祝 儀 | 平山邦夫 | 好間町下好間 |
| いわき市文化協会会長賞 | まつりの子供達 | 小野松二 | 四倉町 |
| 福島県報徳社賞 | 水 の 秋 | 縣 賢二 | 中央台 |
| 美術館友の会賞 | 洗 心 の 流 れ | 荻野正代 | 常磐上湯長谷町 |
| いわき市観光協会賞 | 旭 光 | 青木正行 | 小川町上小川 |
| ク 日 | 和 江尻敏子 | 平北神谷 | |
| いわき写真師会賞 | 聖 夜 | 柴崎恒男 | 自由ヶ丘 |
| 有限会社平電子印刷所賞 | 大木に口づけ | 大竹哲也 | 平赤井 |
| 昭文堂賞 | しゃぼん玉だいすき!! | 緑川良子 | 江畠町 |
| N H K 文化センター賞 | 晩秋の貴婦人 | 鳥海陽太郎 | 平 |
| 東日本国際大学賞 | 雪 地 蔵 | 中村邦夫 | 平 |
| 有限会社ニュータウン薬局賞 | ブロンズ像のある町Ⅳ | 蛭田光 | 常磐藤原町 |
| ライフ・フォート&Y K 写真工房賞 | 残 り 柿 | 高橋三郎 | 錦町 |
| 有限会社ブディング・アリス賞 | 嚴冬走るS L | 長谷川錦治 | 郷ヶ丘 |
| ク | 秋 韻 の 詩 | 松本富美雄 | 勿来町 |
| 株式会社源太賞 | 慈 し み | 四家和也 | 内郷高坂町 |
| ク | 待 望 の 一 匹 | 武田洋子 | 泉町滝尻 |
| カメラ・カラープリントダグラール賞 | 双 翔 | 中川司 | 好間町上好間 |
| 小百合賞 (有)磐植 | LINE | 高木喬夫 | 常磐藤原町 |

講評

一点一点の作品を見ながら真剣にカメラを構えた作者の姿が目に浮かび、シャッターを押しながら呟く声さえも聞こえてきそうな写真も少なくなかった。楽しく、少し苦労しながらも作品に込められた各人の思いが伝わってくるようだった。

それだけに 258 点から 29 点の入賞を選び出すのは難業だったといえる。

市長賞—2人の少女が持つ貝、サーファーや岬などが手前の円形の中に計算したように納まっており、背景の白さが海岸の陽光の強さをも表し良い作品となつた。

議長賞—四世代の家族がカメラを見る表情はいかにも幸せそうで、こちらも気持ちが和む。白黒プリントだからこそ人びとの内側にある幸せ感が押し出されたように思う。

教育長賞—たんぽの畦道の桜が満開に咲いた。日本中、どこにでもありそうな光景を、白黒写真でしっかりと自分のものに表現した。桜は画面の中では点景のように小さいが、存在感は実に大きい。

佳作「考える果実」—メロンの生々しいほどのリアリティと背後に重ねたデザインの構図は実に力強い。バックを白・黒・灰色としたことで安定感が出た。

佳作「しぶき氷」—雪に覆われた海岸の波しぶきが鈍い光に照らされる様子は冬の色だ。作者もずぶ濡れになりながら撮影していたのだろう。

その他、魅力的な作品が数々集まった。なかでも 18 歳をはじめ若い人の入賞が見る側に元気を与えてくれた。今後も大いに期待できる写真が多かったことに敬意を表したい。

2008年2月20日

審査員 大石芳野
(写真家)

第37回

写真の部 入賞者

| 賞名 | 題名 | 氏名 | 住所 |
|----|----|----|----|
|----|----|----|----|

| | | | |
|----------------------|--------------|------|--------|
| いわき市長賞 | タイムトンネル | 高木理恵 | 好間町上好間 |
| いわき市議会議長賞 | 家族譜IV-曾祖父の祭り | 蛭田光 | 常磐藤原町 |
| いわき市教育委員会 教 育 長 賞 | 思い出の桜 | 岩塚昭広 | 小川町上小川 |

《佳作》

| | | | |
|------------------------|---------------|-------|---------|
| いわき商工会議所 会頭賞 | 考える果実 | 河端昭雄 | 内郷綴町 |
| いわき市文化協会 会長賞 | しぶき氷 | 吉川俊紀 | 平下平窪 |
| 福島県報徳社賞 | お焚き上げ | 根本宏之 | 平 |
| 美術館友の会賞 | 黄蝶の誕生 | 鷺良一 | 錦町 |
| いわき市観光物産協会賞 | 三面川からの贈り物 | 引地幸枝 | 郷ヶ丘 |
| ク | 岩肌の輝き | 江名国夫 | 小名浜 |
| いわき写真師会賞 | 燃える海霧 | 山口歎一 | 錦町 |
| 有限会社平電子 印 刷 所 賞 | 大きな仕事を終えて | 杉山宏之 | 平泉崎 |
| 昭文堂賞 | 厳冬の七ツ滝 | 正木秋雄 | 植田町 |
| N H K 文化センター賞 | 苔衣のウィルソン株 | 菊地英夫 | 平赤井 |
| 東日本国際大学賞 | くもの絲 | 猪狩俊子 | 内郷高坂町 |
| ライフ・フォート& Y K 写真工房賞 | ミヤマカワトンボ清流に瞬く | 鳥海陽太郎 | 平 |
| 株式会社源太賞 | 吊し雛 日和 | 平山邦夫 | 好間町下好間 |
| ク | 氷 泡 | 鈴木健司 | 平 |
| カメラ・カラープリント ダゲール賞 | 秋雪の里 | 阿部彦典 | 錦町 |
| 小百合賞 (有)磐植 | 行く春の流れ | 鈴木弘文 | 常磐下湯長谷町 |
| カメラのキタムラ賞 | 魔法の零 | 久田和江 | 平 |
| ク | 朝光に染まる | 中川秀男 | 好間町上好間 |
| 源グループ磯勘賞 | 渚のサーファー | 小川庄治 | 内郷内町 |
| ク | 孫の成長 | 舛井美智子 | 平谷川瀬 |
| 源グループ漁夫賞 | 記代14才の秋に | 吉田精利 | 中之作 |
| だいこん家賞 | 耐え忍る | 石川義紀 | 小名浜 |
| ク | MASK | 尾島絵理 | 中央台 |
| 丸貞かまぼこ賞 | 永遠の時 | 鈴木穢藏 | 小浜町 |
| ク | 鉄道工事 | 中村邦夫 | 平 |
| アートスペース泉賞 | Form | 中澤美紀子 | 平下平窪 |